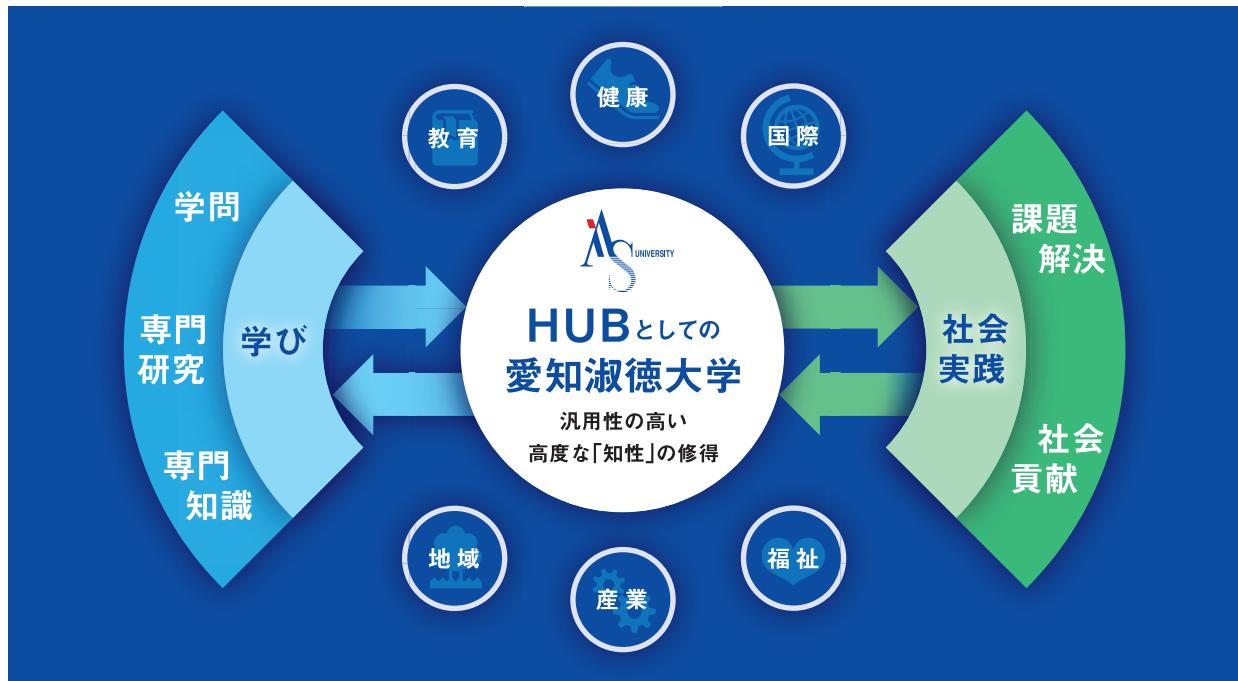


学問や専門分野の学修は、何らかの形で社会に還元されなければ意味がありません。あらゆる学問は人類の幸福と発展に資するべきものです。また、社会的に意義ある貢献は、どのような些細なものでも、学問や専門分野の「知」の裏づけがなければ、独りよがりになってしまいます。

2020年度からの5か年、愛知淑徳大学が新たに掲げるビジョン「学びと社会実践のHUB」とは、学問や専門分野の高度で広範囲の学修と現実社会での個別的で具体的な実践・貢献の中継点として、本学を位置づけることを意味しています。汎用性の高い十分に高度な「知性」を修得し、それを地域や社会の個別的で具体的な問題・課題解決において実践し、本学の理念である「違いを共に生きる」を社会に還元し得る人材の育成をめざします。



## ← AS VISION 2020 達成のための 5 つの柱 →



**学問の深化・発展と、学生一人ひとりの成長を社会につなぎ、人々が「違いを共に生きる」未来に貢献する大学でありたいと考えています。**

| 学長補佐(自己点検・評価担当)  
FD及び自己点検・評価専門委員会 委員長 心理学部 心理学科 教授 小川 一美 |

「AS VISION 2020」は、大学全体の核となる5か年の中期ビジョンです。島田学長をはじめとする大学運営委員会とFD及び自己点検・評価専門委員会が連携し、2018年秋頃から議論を重ねてビジョンを明文化しました。2019年夏には教職員合同の研修会を開いてビジョンを共有し、同じ目標をめざして大学運営や教育・研究のPDCAサイクルを回す基盤を築きました。「学びと社会実践のHUB」というビジョンの根底にあるのは、よりよい社会づくりのエビデンスとなる学問の深化・発展と、次代を担う人材育成を推進していく、本学のゆるぎない志です。学生一人ひとりが真剣に学び、たくましくやさしく成長して、卒業後それぞれの場で自分らしく輝くことが社会貢献の一つであり、「違いを共に生きる」社会を実現させる力になると信じています。